

所 信 表 明

令和4年6月

市川市長 田中 甲

演説に先立ち配布用として作成しましたので、当日の演説と表現その他に差異があります
ことをご了承ください。

本日、令和4年6月市議会定例会の開催に際し、市長として今後の市政運営について、私の思いをお伝えいたします。

【はじめに】

海外では国同士の争いにより、国民の平穏な日常が奪われるという悲劇が連日報道されています。このような軍事行動は東アジア情勢にも大きな影響をもたらしかねない、深刻な事態であります。

私は、「暴力・武力・戦争と180度違う立場で平和的に物事を解決すること」が、国際政治で最も大切なことだと思っております。

戦禍に見舞われ、住む場所を追われる方々に思いを馳せると同時に、遠い国で起きていることが日本国民、市川市民の生活にも大きな影響を及ぼしてくることを痛切に感じております。そして、政治や行政が人々の命や人権に与える影響は、いかに大きいものなのかと改めて認識しているところです。

だからこそ、政治や行政にたずさわる者として、市民の命や暮らしを守り、いつまでも住み続けられるまちをつくる、その責任を果たすため、市民目線、現場主義で市民のニーズをしっかりと受け止めなければなりません。

私は、3月に行われた市長選挙の結果、市民の皆様から信託を受け、市長に就任いたしました。約50万人の市川市民のために尽力できることを誇りに思うとともに、職責の重さを痛感し、改めて身の引き締まる思いであります。市川市政を預かる者として、為政清明を信条に、市政に対する信頼を回復し、市民の皆様と一緒に安定した市政をつくることを市川市長としてお約束します。

市川市は、東京都に隣接しているという良好な立地や交通の利便性によって早くから市街化が進み、現在、人口は約50万人にも及ぶまちとなっています。

しかし、都心に進学・就職する際の居住地として、20代前半の若い世代に選ばれている一方で、20代後半から40代前半にわたる、いわゆる子育て世代が多く転出しています。

また、65歳以上の人口の割合も年々上昇しています。子育て世代の転出や、ひとり暮らしの高齢者、認知症高齢者も増加傾向にあることから、今後も少子・超高齢社会の進展により、社会保障経費の増加が見込まれます。

そこで、本市が持続可能なまちであり続けるために、働くお父さんお母さんが「市川市なら安心して子育てができる」と思っていたような環境やシステムをつくることで、子育て世代の定住促進を図ります。

そして、小さな子どもから高齢者まで、誰しものが健やかに暮らし、お互いを支え合う、健康寿命日本一のまちを目指してまいります。

本市はかねてより文教都市といわれてきました。このインテリジェンスあふれる自然豊かな文教都市の魅力をさらに高めるために、私の政治家として17年、経済人として20年の経験と人脈を生かし、全力で取り組んでまいります。

【公約として取り組む施策（7つの基本政策）】

私の選挙公約を実現する前に、まず優先するべき喫緊の課題は、新型コロナウイルス対策です。

これまでの感染防止対策の徹底や、ワクチン接種率の向上といった市民の皆様のご理解とご協力に深く感謝申し上げます。収束が見えたときでも、自らが感染源とならないよう気を緩めず、感染防止対策に取り組んで行くことが大切です。そのためには、正しい情報の発信により、正しい知識を得ることで、感染リスクを適切に抑えていくことが必要です。With コロナ時代の生活様式のスランダードを、市川から発信していきます。

新型コロナウイルス対策に取り組むことで市民の生活と暮らしを守り、不安な日々を過ごす市民一人ひとりに寄り添いながら、実りある未来を手にするために、これから本市が目指す方向性について申し上げます。

【行財政運営】

1つ目に、「行財政運営」についてです。

市民の皆様へ寄り添うために、まずタウンミーティングを開催します。一人ひとりの声に耳を傾ける「聞く市長」として、市民の声と想いを受け止め、様々な施策に反映させていきます。また、情報公開を徹底し、より透明性を高めることで、市民の皆様からの信頼を取り戻したいと思っています。そして、この公正な市政運営に資するため、自らの政治姿勢として、市長の給料の減額及び退職手当の辞退を決意しました。

本市はこれまで、順調な市税収入の確保と堅実な財政運営に努めてまいりました。一方で、数多くの行政課題を抱え、その中でも老朽化が進む公共施設の再整備を計画的に実施していく必要があることから、優先順位を正しく判断し、実行してまいります。

地域経済の活性化と市の財源確保を両立するため、市役所の調達には市内業者を基本にします。そして、無駄を排するために、施策の緊急性や重要性を整理し、必要などころに必要なお金を正しく使う「選択と集中」をモットーに、メリハリのある財政運営を実施します。

【防災・防犯】

2つ目に、「防災・防犯」についてです。

災害時における公助の役割は極めて重要ですが、生死を分けるタイムリミットである72時間を生き延びるためには、自分の身を自分で守る「自助」や、地域住民がともに協力し合う「共助」が大きな役割を果たします。

そこで、災害の発生直後に地域住民の命を守るため、防災リーダーの育成により地域防災力の向上を図り、さらに国・県との連携を強化して強固な危機管理体制を構築します。

また、災害発生時には速やかに避難所を開設するとともに、配慮を要する方のために、必要に応じて迅速に福祉避難所を開設します。避難所には水や食糧だけでなくトイレや電源を配備するとともに、少しでも安心して避難所生活を送っていただけるよう、バリアフリーやプライバシーなどに配慮した環境を整えることで、復興への希望と意欲を抱けるような万全の準備を行ってまいります。

最近では想定を超える規模の災害が発生していることから、地震や大雨に強いまちづくりを早急に実現していかなければなりません。公共施設の耐震化は平成25年に完了しましたが、民間の住宅や建物の耐震化、沿道の危険ブロック塀対策を実施し、避難経路を確保するなど、市民の命を守る強靱なまちづくりを進めます。

台風などで大雨が降ると、下水道や排水路から水が溢れる危険性があります。このような内水氾濫に備え、下水道施設の排水能力を強化し、より安全で水害に強いまちにします。また、市内 55 箇所の土砂災害警戒区域を中心に、崖地の安全対策についても迅速に取り組んでまいります。

事故や犯罪が起これにくいまちにするには、日頃から未然に防ぐための対策を取ることが極めて有効です。まちに防犯灯や防犯カメラを増設することで、市民の安全と安心を確保していきます。

【まちづくり】

3つ目に、「まちづくり」についてです。

東京都に隣接し利便性が高いという立地を生かし、秩序ある住宅地と、豊かな水と緑の自然環境とが両立した魅力あるまちにしていきます。

まちの中には、無数の電柱や電線・通信ケーブルがあります。これらが地上からなくなることで、すべての人にとって安全で快適に利用できる歩行空間が生まれ、景観も良くなります。特に、災害時に電柱が倒れたり電線が垂れ下がる危険性がなくなることで、安全な避難にもつながるため、道路や公共施設などを建設するタイミングを逃すことなく無電柱化を進めます。

全国的な課題である空家対策は、住宅都市である本市においても例外ではありません。空家の所有者との積極的な連携や本市の宅地建物取引業協会をはじめとする関係団体の協力のもと、単に空家を解体するばかりではなく、地域のニーズに応じた地域の拠点として活用するなど、生活環境を守るため総合的に取り組んでまいります。

市役所のある八幡地区では、本八幡駅北口に 2 つの再開発計画があります。地域住民としっかり話し合い、市役所や葛飾八幡宮へつながる市川市の顔となるまちづくり計画が前に進むよう努力してまいります。

橋は、人と人、まちとまちをつなぎ、私たちのまちや生活に交流の機会を広め、賑わいをもたらすものです。行徳地域と江戸川区を結ぶ、今井橋に続く第2の橋として、(仮称)押切橋の計画が動き出しました。橋をきっかけに、行徳駅前の利便性と歴史あふれる旧道の価値をともに向上させ、行徳地域の魅力をさらに高めてまいります。そのためにも、1日も早い開通に向け、引き続き東京都や千葉県と連携を図ってまいります。

また、市川南地区の住民をはじめ多くの皆様が待ち望んでいる(仮称)大洲橋についても、早期の事業化に向け、引き続き関係機関に強く働きかけてまいります。

市内の経済を活性化する方法の1つとして、市内のお金の循環を図ることが挙げられます。そこで、市民の元気な活動への支援と地域経済の活性化を両立させる新たな試みとして、誰もが利用しやすいデジタル地域通貨の仕組みや運用などについて、政策参与を設置して研究を進めてまいります。

また、デジタル社会を支えるスマートフォンなどの携帯端末は、今や私たちの日常に欠かせないものとなっています。日常生活での利便性の向上や災害時の様々な情報の入手のため、すべての市の公共施設などにWi-Fiスポットを順次整備します。

経済を支えることはまちの活力を支え、人々の日常を支えることにつながります。経済人としての発想を生かし、地域力を向上させる市政に取り組んでまいります。

【環境】

4つ目は、「環境」についてです。

地球温暖化の進行により、気候変動の危機は深刻さを増し、そのための対策は待ったなしです。今すぐ行動を起こさなければ、私たちの地球は取り返しのつかないことになってしまいます。

環境問題には、様々な要因が複雑にかかわっています。しかし重要な視点は自然の摂理を理解し、循環とバランスを保つことです。一人ひとりの生き方が地球環境につながっていることを意識し、資源やエネルギーを循環させ、バランスよく環境を保つことができるよう啓蒙してまいります。

そのうえで、ごみの問題について一人ひとりが当事者意識を持って向かい合えるような取り組みを進めるとともに、クリーンセンターの建て替えにあたっては費用と機能を見極めた計画といたします。

そして、市川市として持続可能な地球環境や社会に向けて取り組む責務を果たすため、できることから行動を起こしていかなければなりません。

本市はSDGsを推進する都市として、環境にやさしいまちづくり、いつまでも住み続けられるまちづくりを、市民の皆様とともに進めてまいります。

「その国の道徳心の高さは、その国の動物に対する接し方によって分かる」というマハトマ・ガンジーの言葉があります。人間はもちろん、動物や植物も、すべての命を尊ぶことが何よりも大切なことです。

ペットを飼うことは、ひとつの命を預かるという認識を改めて周知し、飼育方法やしつけ、不妊手術などといった飼い主としてのマナーと責任について啓発を進めるとともに、やむを得ずペットを手放すようなことになった場合でも、里親募集などにより殺処分ゼロを目指してまいります。

また、飼い主のいない猫によるトラブルをなくすための地域猫活動への支援を強化し、地域の理解のもとに動物との共生社会をつくりまします。

本市は、中央に江戸川が雄大に流れ、南北に長い地形が特徴です。北部には梨畑や里山風景が、また南部には三番瀬や行徳近郊緑地などの水辺環境があり、東京都に隣接するまちでありながら、恵まれた自然環境が残されています。この豊かで貴重な自然環境を次世代につないでいくため、保全と活用の観点から自然と共生したまちづくりを進めてまいります。

【文化・スポーツ】

5つ目に、「文化・スポーツ」です。

誰もが自分らしく暮らせるまちとは、国籍、年齢、障がい、LGBTQ+など、様々な違いをお互いに受け入れ、認め合う、ダイバーシティが実現されたまちです。人権教育の推進や、多様な方が文化活動やスポーツに参加できる環境の整備を進めることで、健康で健全な社会の実現を目指してまいります。

若い世代を中心に人気の高い、スケートボードやスポーツクライミングなどのアーバンスポーツは、オリンピックの新種目として注目を浴び、そのエンターテインメント性に多くの若者が魅了されています。プロスポーツ選手との交流の機会を設けて子どもたちに夢を与え、進化を続けるスポーツの世界を応援しスポーツ環境を整えてまいります。そしてコロナ禍で縮小していたイベントを充実させることで、地域に賑わいと活力を創出します。

また、コンピューターゲームの対戦をスポーツ競技として捉える「eスポーツ」も世界中で競技人口や市場規模を拡大しています。年齢や障がいの垣根を超えて楽しめる新たな競技の魅力を周知し、応援してまいります。

文化財保護の視点では、本市には貝塚などの史跡をはじめ大切に守っていかねばならない歴史的な文化財があります。また、駒形大神社の御奉謝や国府台の辻切り、行徳の五ヶ町例大祭などの伝統行事も時代を超えて受け継がれています。これらの地域資源を活用して、市川という地域に親しみや愛着を持ってもらえるよう、積極的な情報発信を行ってまいります。

文化・芸術がいつも私たちのそばにあることで、歴史ある文化を未来へつなぎ、文教都市として発展し続けることができます。新進アーティストの活動拠点や美術館の開設も視野に入れながら、市民の皆様が市川市らしいまちの文化を身近に感じられる環境づくりを目指します。

【子ども・教育】

6つ目に、「子ども・教育」についてです。

子どもたちの未来は、市川市の未来です。子どもたちの明るい未来のために、全力で子育て施策、教育施策に取り組んでまいります。

子育ては初めての連続ですから、自分たちだけでは解決できない問題や不安がつきものです。また、性別にとらわれずこれまで以上に男性が育児参加しやすい社会が必要です。子育て世代が気軽に悩みを相談できる体制を充実させるとともに、安心して子育てできる環境を整えてまいります。

すべての子どもたちがこの市川で心豊かにすくすくと成長できる環境をつくるため、医療的なケアが必要な子どもや、発達に課題のある子どもなどへの支援に取り組んでまいります。

子どもたちが進学した際に、新しい環境に馴染めず不安な学校生活を送ることがあってはなりません。幼稚園や保育園から小学校へ、小学校から中学校へと進学する過程で、双方の先生方が相互協力・連携を図ることが重要です。「幼保・小・中」と切れ目のない支援体制、クロスフェード化を進めることで、新しい学校生活に上手く溶け込める環境づくりに努めます。

学校生活において給食の時間は、子どもたちを笑顔にする大切な時間です。引き続き地産地消に取り組むほか、食の安全性を維持し、学校給食費の無償化に向けた関係機関との協議を進めます。さらに、子ども食堂の支援など、すべての子どもたちの食の環境を守ります。

教育は子どもたちだけのものではありません。世代にとらわれず知性を高める機会を市民の皆様を提供していきます。大学との交流や高齢者の学習機会の確保といった生涯学習環境の充実など、何歳になっても学べる仕組みを整えます。

【保健・福祉】

最後に、「保健・福祉」についてです。

コロナ禍から脱却し、健康のために活動できる日々を取り戻すためには、年齢や障がいを理由に外出が困難となってはいけません。福祉タクシーやシルバーパスなど、個々の状況に適した外出支援を充実させることで、高齢者や障がい者を含め誰もが分け隔てなく、ともに暮らせるまちを目指します。

高齢社会が進む中で、認知症支援とその予防はまさに喫緊の課題です。認知症をより身近に捉えられるよう理解を深め、共生と予防の推進を図り、高齢者の心身の健康づくりを進めます。

障がいの有無などを問わず、互いを認め、互いを思いやり、誰もが生きがいをもって過ごすことができる社会の実現が求められています。そのためには、当事者やその家族だけでなく、事業者と行政がともに取り組む必要があります。障がい者や高齢者が前向きな気持ちをもって就労できるよう支援し、社会参加を後押しします。

予防接種の重要性を改めて認識した今、市民の命を守るための環境を整える必要があります。特に、子どもは成長に応じて何種類もの予防接種を計画的に受けることになっているため、正しい情報に基づいて、接種を希望するご家庭のお子さんが確実に受けられるように支援を図ってまいります。

【むすび】

私が最も重視するテーマとして掲げるのは健康寿命日本一です。誰もが健康上の問題で日常生活が制限されることなく、ハツラツと元気に暮らし、心の健康と体の健康のバランスがとれた、活力あふれる生涯を送れることを願っています。

そのためにも生活習慣といった個人の健康管理のみならず、潤いのある人間関係を構築することが大切です。さらに、都市基盤が整備され環境にも配慮した「まちの健康」も一体的に捉える必要があります。

これまで述べた7つの基本政策を総合的かつ多面的に取り組むことで、格差のないまち、健康寿命日本一のまちを目指します。

加えて、これらの基本政策は世界共通の目標であるSDGsの理念と調和したものであります。この市川市が誰一人取り残さない、持続可能なまちになるよう全力でまい進してまいります。

市長としての私に託された課題は、信頼と安定の市政を行っていくことでもあります。昭和9年11月3日に市制施行して以来、88年にわたり発展し続けてきたこの市川市を、市政100年に向け、誰もが安心して充実した日々を過ごすことのできる持続可能なまちとして、次世代につないでいかななくてはなりません。そのためにも、今、取り組まなければならない基盤整備と施策を掲げ、市民の皆様とともに歩んでまいります。

むすびに、市民の皆様並びに議員各位のご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。私の所信表明といたします。